



黒小だより



令和7年 9月30日

第6号

【今年度の重点目標】 ～豊かに表現し、学びを深める子の育成～

○学ぶ楽しさと成長を実感できる学校 ○元気な挨拶と思いやりにあふれる学校 ○保護者・地域の信頼で結ばれる学校

先輩の生き方に学ぶ

校長 半田 健一

日本人初の宇宙飛行士「毛利衛さん」による特別授業を実施したことは前号でも少しふれましたが、今号では授業前後に毛利さんがお話されていたことも含め、紹介したいと思います。

事前のオンラインミーティングで、毛利さんから「私が宇宙へ行って、宇宙から授業をしたのはもう33年も前です。当時は偉業だったでしょうが、今の子ども達に話しても関心はないでしょう。昔のことを一方的に伝えるのではなく、今のことや未来のことについて対話しながら、子ども達に考えてもらえるような授業にしたいんです。」というお申し出がありました。

本校は、「考えたことを伝える」「伝え合いながら考える」授業を大切にしていますから、ありがたいお話でした。そして、毛利さんにとって宇宙へ行くことは、決してGOALではなく、「宇宙へ行った自分には何ができるか」を今も探し続けているのだとわかり、感銘を受けました。

「どんな職業に就きたいですか？」と子ども達によく問いかけてきましたが、この問いはよくないなと気づきました。「あなたは何がしたいのですか？」「どんなことが好きなのですか？」の方がいいでしょう。「○○にならなきゃ～できない。」ではなく「○○にならなくても～はできる。」のですから。「人を笑わせたい」なら、芸人でなくても、漫画家、映画監督、Youtuber…でも叶うのです。新しい職業がどんどん生まれている現在、いくらでも選択肢はあるはずです。

授業では、あらゆる製品に利用されているプラスチックが、地球環境に与える影響について、様々な数値を通して示されました。その上で、毛利さんから次のような問いかけがありました。

「【便利な暮らしを続ける】かそれとも、【不便でも自然を守る】か、選択してその理由を友達に伝えましょう。」

考えを伝えることに臆病にならず、活発に対話する様子を見た毛利さんは「今の子どもは本当に凄い」と感心されていました。数では（便利な）6：（不便でも）4の割合でした。授業後には、このことについても「うれしくなりました。大人が求めているような答えをさがしたりせず、悩みに悩んで正直に答えてくれたんです。こういう子ども達が新しい世界を作るんです。」とおっしゃっていました。



or



授業の後半は、【「便利」と「自然」の両立をあきらめず、乗り越えるための発見・発明をする】という第3の選択肢を紹介してくれました。その例としてあげられたのが「生分解性バイオポリマー（グリーンプラネット）」。土中でも水中でも、微生物の働きによって最終的に水と二酸化炭素に分解されるプラスチックです。私も知りたくなって調べてびっくり！この素材を作っているのも微生物だということです！栄養となる油を食べ、身体の中にためたものがグリーンプラネット！この微生物を発見した(株)カネカが実用化し、大手コンビニのストローにも使われているそうです。

最後に言いたいことがあって挙手した子が数名。

「だからといってゴミを捨てていてはだめだと思います。」
「微生物が増えすぎて環境が悪くならないんですか。」
大先輩は、このように発言できたことも、考え方も大変ほめてくださいました。

最後に言いたいことがあって挙手した子が数名。

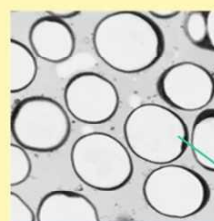
「だからといってゴミを捨てていてはだめだと思います。」

「微生物が増えすぎて環境が悪くならないんですか。」

大先輩は、このように発言できたことも、考え方も大変ほめてくださいました。



kaneka.co.jp →



外側の黒い部分が
微生物の身体

白い部分が身体
の中に蓄えられた
Green Planet

<https://greenplanet.kaneka.co.jp/>

